

2021年度地域福祉コーディネーター総合研修(講座⑦)事例検討シート

所属・職名	〇〇町社会福祉協議会	係名	ボランティアコーディネーター
氏名	長野 県太郎	市町村名	〇〇町

(昨年度の事例を少しアレンジして、例にしています。)

●現在、相談を受けている具体的な事例を一つ記入してください。

事例のタイトル	精神障がいがある方と地域との関わり
この事例を選んだ理由	ご本人、地域に対して、どのようにコーディネートをしていくか多様な視点からアイデアがほしいため。

相談者	A子さん(52歳)女性
相談内容 (事例の概要)	<ul style="list-style-type: none"> ・居場所がほしい。地域の役に立ちたい。(ボランティアへの興味有り) ・精神障がいに対する偏見をなくしたい。 ・県外に住む両親との関係を修復したい。 ・県外から数年前に当町に越してきた。 ・音楽や体を動かすことが好き。 ・趣味の篠笛サークルに入り、自身のことを伝えたら一様に驚かれた。行きづらい。 ・町の保健師の対応がきついため、会うのを拒否していたら、ここ数か月訪問に来ることはなくなった。 ・日によって症状の変化がある。薬の影響により、時折口が回らないことがある。 ・就労経験はあるが、長続きしない。
これまでの対応内容	<ol style="list-style-type: none"> ① まずは、ボランティアセンター内の地域交流センターで古切手の整理をお願いした。その後、併設するカフェでたまにコーヒーを飲むように。 ② 地域の話し合いに参加して、ご自身の障がいについて伝えるが、理解を得られず、悲しい思いをしたと相談にくる。 ③ 誰でも気軽に参加できる「趣味サークル」にお誘いする。リラクゼーションフラが気に入り、今後も続けたいとの希望があるが、コロナ禍で中止が続いている。
評価と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に暮らす多様な方が生きづらい町にならないよう、ひとりひとりの困りごとに対応していくために様々な視点を取り入れたいが、一人で業務にあたっていることもあり、不十分だと感じる。 ・A子さん自身が、地域の中で居場所や仲間、役割をつくっていくために、既存のコミュニティやキーパーソンとどう繋げていくか。 ・障がいの理解を進めるには、地域へどうアプローチしていくか。

※ご提出いただいたこの用紙をそのまま印刷します。